

インターバンクの声（2016年2月17日）

先週末、ロンドン市場の早朝時点で111円台だったドル円は、その後は大きな反落もないままドル買いが続き、昨日はいよいよ節目の115円に手が届くところまで戻った。しかし、日経平均株価の上昇にブレーキが掛り始めた東京の午後からはドル売り優勢の相場に戻ってしまった。さらに、夕方にはドル買いの材料に出来るものと待ち構えていたサウジアラビアとロシア間での原油生産量の調整に向けた協議が、1月の生産量を維持して減産の決定にならなかった失望のドル売りになる結果だった。市場の一部には、一時の111円割れの水準をさらに下回るようなドルの底割れの可能性はほとんど消えたとの見方もあるようだが、足許は115円を割ってドルが下落した際に一旦下げが止まった114円台前半が上値抵抗レベルにもなりかけており、相場のバイアスは依然ドル売りに傾いたままのような気もする。昨夜の海外市場での救いは、ニューヨーク株価が結構上昇して引けてくれたことだ。今日のアジア株が大きく下げるようなことがなければドル円の下落幅も少ないはずだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。